

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」宮城県医療救護活動従事者研修会を実施しました (2023/11/11-12)

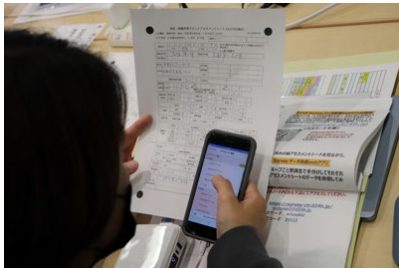
テーマ：避難所データ収集、デジタル化、D24H、衛星電話通信
場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2023年11月11日（土）～12日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で、令和5年度宮城県医療救護活動従事者研修会（主催：宮城県、委託：東北大学病院、実施：コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム）を開催しました。県内外の保健医療従事者（医師、歯科医師、看護師、保健師、薬剤師、放射線技師ほか）、行政職員ら計25名が受講し、42名のインストラクター・運営スタッフが講師として参加しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

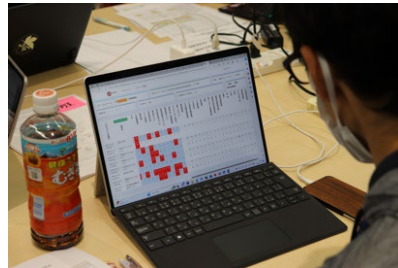
この研修会では、避難所データの収集と分析において、D24H（Disaster/Digital information system for Health and well-being）というシステムを利用し、手書きではなくスマホアプリ・PC入力を用いて、効率的かつ正確に避難所データを集約・分析し、対応につなげることが、研修目標の一つになっています。また災害時には現場-本部間のデータ通信・通話も途絶しがちであることから、衛星携帯電話や簡易無線の取扱いに習熟することも学習目標となっています。

受講者は初めて目にするD24Hの操作画面に戸惑いながらも、避難所データの入力作業を行い、集積されたデータから、どの避難所を優先的に調査・支援するのか検討しました。また、通信事業各社の衛星携帯電話の特性、使用・設置方法について学習しました。研修の最後には、総合演習として現場病院と市役所本部に分かれて通信機器設置、情報伝達、データ解析から意思決定まで、実災害さながらのシナリオを体験しました。

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」では年間を通じ、災害保健医療に関するさまざまな実践的研修を実施しています。



手書きの避難所データを
スマホアプリで入力



集約データからどの避難所を
優先的に調査支援するか検討



衛星携帯電話設置使用訓練。
実際に通話し使用可否を確認



現場の状況を簡易無線で
離れた本部に簡潔に報告する



VSATのパラボリアンテナを
人工衛星を指向し調整する



別室から衛星携帯、簡易無線
で情報を受け取る模擬本部